

〔6番 上ヶ吹豊孝 登壇〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

議長のお許しを得ましたので、一般質問をいたします。

1つ目、山村留学の推進を。近年、都会の大規模小学校では、特に団体行動が苦手な子供や学校になじめない子供が一定数いて、不登校や登校しぶりなどの問題を抱えている子供たちがいます。子供の学校環境を一変させる目的で、移住を考える親が増えているそうです。

田舎へ移住しても「リモートワーク」を取り入れる企業も増えており、働く人たちからは「移住」や「ワーケーション」、ワーケーションというのは、仕事と休暇を両立させる働き方のようなので、という言葉も多く聞かれる。子育てをしながら働く世代の中にも、都会を離れ自然の多い場所へ家族で移住を考えている人も多い。自然豊かな環境で子供が思い切り遊べるのは、子育て移住をすることの1番のメリットです。子供にとって遊ぶことは心身の成長に欠かせない重要な行為。しかし、多くの人が住む都会では、人が多過ぎて公園で思うように遊べない、子供の声に苦情が来るといった心配もあります。そんな中、広い土地でのびのびと走り回ったり、虫や草花と触れあいながら自由に遊ぶことのできる環境は魅力的です。

飛騨市でも少子高齢化や人口減少が進む中、市では積極的に子育て世帯の移住・定住を増やす取組をされていますが、今回、山村留学の取組について質問いたします。

1つ目、積極的な山村留学の推進を。最近、佐渡島の小さな村で小学校の山村留学について放送があり、小学校全校生徒10名中、8名が本土からの留学生と放送されました、都会でなじめない子供たちが元気に駆け回り、家庭では子供たちが積極的に会話をするが増えて、大変喜ばれていました。少人数だからこそ、先生も生徒一人一人に目配りができ、地域の方も村に活気が出てきたと喜ばれていました。

飛騨市には、山之村小中学校、宮川小学校、河合小学校がありますので、自然豊かな環境で子育てを検討している親御さんも多くみえると聞きます。飛騨市として、山村留学を積極的に取り組むことを推進してはいかがでしょうか。

2つ目、長期のお試し留学を。山村留学を検討されている御家族は、短期の体験留学では、後になって思った生活ができないと途中で帰られるケースが多々あると聞きますので、移住を前に村での生活を長期間、例えば半年以上、実際に移住後の生活を体験し、公共交通やマイカー、徒歩などの様々な形態で周遊し、買出しや余暇の場所などを朝から夜まで生活することで、不便なところ、思ったより快適なところなど、生活環境が分かる体験を受け入れてはどうか。そのためには生徒の転校も容易に行い、長期の宿泊施設も準備する必要がありますが、検討するお考えはありますか。

3つ目、山村留学の支援を。飛騨市では「飛騨市移住支援センター」が開設され、移住を検討されている方への相談や、移住後の相談窓口として活動されています。移住支援内容を見ますと、移住奨励品、交通費補助金、移住検討宿泊補助金、引っ越し費用補助金などなど充実しておりますが、この補助金を山村留学体験、例えば半年以上の方にも採用することで、多くの体験者が集まり、移住につながると思いますが、いかがですか。

また、飛騨市のホームページに山村留学の専用情報サイトを立ち上げ、自然豊かな場所で学ぶ

魅力をPRしてはどうでしょうか。

4つ目、保育園留学で移住促進を。飛騨市では、2024年から、都市部の保育園に子供を通わせる保護者からは、自然環境の中で子育てをしたいとのニーズがあり、河合保育園では通年で保育園留学の受入れを行う取組をされています。内容としては1週間から2週間滞在することで、観光や旅行とは一味違う、飛騨市の魅力を深く体験していただき、新たな関係人口の拡大を目指すとありますが、この試みは現在、山之村保育園は休園中ではありますが、ぜひ保育園留学を、宮川保育園も含め実施していただきたいと思いますが、いかがお考えでしょうか。

本事業は、移住定住支援よりもむしろ、新たな関係人口の創出や地域経済の活性化を図ることを目的とお聞きしました、利用された家族の感想も見させていただきましたが、1週間の観光旅行のようにしか思えません。令和5年と令和6年、合わせて7組の家族が保育園留学を利用されていますが、現在のところ、飛騨市に移住された方や移住希望者はいないとのこと。やはりせっかくの事業なので、将来的には移住促進につながり、山村の人口増を目指す取組が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

山村留学につきまして、4点の御質問をいただいております。

まず、1点目から3点目の「山村留学の推進」「長期のお試し留学」「山村留学の支援」につきまして、まとめてお答えをいたします。

小学校・中学校への就学は、市町村の教育委員会が通学区域を定め、その指定に基づき、就学先が決まることが法令で定められております。保護者には指定校への就学義務がありますが、身体的な理由で通学が困難な場合など、特に必要と認められるときは、市町村の教育委員会の判断により、保護者の申立てを経て、市町村内の他校に変更することが可能となっております。また、他の市町村の学校に通う場合も、居住地の教育委員会と受入先の教育委員会との協議を経て、承諾が得られれば区域外就学として認められております。文部科学省の調査によりますと、少し古いですが、令和4年5月1日時点で山村留学を受け入れている教育委員会は、全国で小学校が67、中学校が51ありまして、その9割以上は留学先に住民票を移して実施をされています。

一方で、区域外の就学制度を活用し、住民票を移さずに実施している事例も、一部あるとされております。他方、飛騨市におきましては、令和5年度より、1から2週間の短期滞在を通じて、子供が保育園に通いながら、保護者も地域で働きつつ暮らしを体験できる「保育園留学」を導入し、実施しております。

さらに現在は、居住地外の公立高校で3年間を過ごす「地域みらい留学」というプログラムについても、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームと連携し、導入が可能か、検討を進めているところであります。その中では、長期のお試し留学や交通費等の支援策の必要性についても、併せて検討する必要があると考えております。

義務教育の9年間は、各市町村が小中一貫教育など地域の特色ある教育を重視して取り組んでいることから、飛騨市としては、まず義務教育を終えた高校生を対象に、人口減少や高齢化とい

った地域課題に向き合い、実践的な学びを重ねることで、課題解決力や探求心を育む機会を提供することが重要であると考えております。その上で、卒業後も関係人口として地域と関わり続けたり、市内で就労し、地域の活性化に貢献する人材へとつながることを期待しております。

続いて、4点目の保育園留学についてお答えいたします。議員御指摘のとおり、現在は河合保育園の1園のみが、3歳以上の園児を対象に受入れを行っております。令和5年12月から受入れ募集を開始し、令和5年度は1組、令和6年度は6組の御家族が利用され、令和7年度につきましては、現時点で予約を含め3組の利用が予定されております。

今年度は、これまでの3年間の実績を踏まえ、効果検証を行った上で、次年度以降の継続について検討を進めているところでございます。受入れ数が伸びない要因といたしましては、滞在先から保育園までの交通の不便さ、受入れ可能な時期や枠の少なさ、留学期間中に利用できる宿泊先の不足などが挙げられております。また、受入れ保育園の数を増やすには、一時預かり事業の中で留学園児用の枠を確保する必要があり、そのためには保育士を1名追加配置することが求められておりますが、保育士の確保が難しい現状においては困難であるとの認識に立っております。

なお、保育園留学はもともと移住・定住の支援策としてではなく、新たな関係人口の創出や地域経済の活性化を目的として実施しております。もちろん移住促進につながる可能性もありますけれども、実際に利用された御家族へのアンケートでは、移住を目的とした方はおらず、最も多い理由といたしまして、「子供に自然を体験させたい」が挙げられており、移住を前提としない利用であることが裏づけられているものと認識をしております。

以上です。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

今ほど高校生を対象というふうに言われましたけど、私がこの取組したのは、先日ある公園で、全国に35万人の不登校のお子さんが見えるというふうに聞いたんですけども、これすごい数字だと思って、結局理由はいろいろあるとは思いますが、やはりよく言われてるいじめだとか、そういった環境に、大勢の生徒さんとの環境がなじめないとか、そういった方も相当数いると思いますので、先ほど言いましたように、佐渡島の10人足らずの小学校ですけれども、そこに移住されて、小学校なんで家族で当然移住されておるんですが、そういったことで、35万人もいる中のそういった生徒さんを、やはり学校に無理やり入れたりとか不登校にするよりも、こういった神岡町とか古川町じゃなくて、やっぱり山村でのびのびと、小学校のうちにそういった生活をさせるということが、将来的には大変いいことだと思うんですが、今、部長が答えられた中で、私、特にやっぱり山村というイメージがあるんですが、何か難しいことってありますか。

例えば生活の面とかありますけど、これはちょっと検討する余地がないなというものがあれば、お聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

検討する余地がないといった決定的なことはないかなと思っております。ただし、この山村留学というのは非常に歴史もある制度というか、そういう仕組みなんですけれども、時々やっぱり

言われますのは、やっぱり都会でなかなか通学しづらい、そういうお子さんを学校で受け入れる、山村のほうで受け入れる。そうした場合に、受入れ側の学校でのそのサポート体制みたいなことも、そこは必要なケースが結構ありますよねといったことも言われております。そういったことがきちんと体制として整備ができるのかとか、もちろんカルチャーも違ってまいりますので、そのギャップみたいなところがきちんと埋まるのか、それは杞憂に帰すかもしれませんが、そういったような課題があったりとか、あと住むとことかですね。昔は子供だけが中学校へ来るという、下宿するというケースもあったかと思えますけれども、最近は家族帯同でいらっしゃると思います。そうすると、やっぱりそこでの就業環境、お仕事の環境とか、そういったところも総合的に考えて検討していく必要があるかなというふうに考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

結局、山村留学なんで、例えば今、飛騨市の小学校は少人数で、2、3人受け入れても、先生を増やさなくても十分気配り、目配りできると思っております。それと、やはり親御さんというのは、子供の幸せを一番考えていて、先ほど言いましたように、リモートワークもありますし、そういった仕事面では問題ない家族もみえます。

それと、飛騨市へ来ていただいて、例えば山之村に住んでいただいて、車で30～40分で神岡町も来られますし、そういった仕事の面とかはあまり問題ない、先生を増やさなくても面倒を見れる、そういったことがあるんで、私、山之村のことしか分かりませんが、今の山之村も年々生徒さんが減って、小学校も少なくなって、今後どうなるかで心配なんですけど、そういったところにやっぱり子供さんと呼んで、その地域の活性化、そういったことにつながりますし、私、中学生の場合は進学とかちょっとあって、むしろ高校生はもう卒業したらすぐ進学なり就職されるんで、やっぱり小学校の方がもしみえたら、6年間プラス3年、最大で9年間みえるということで、当然地域の活性化にもなりますんで、何とか前向きに、特に私、小学校だと思うんですが、検討していただきたいと思えます。

それと、なぜかという、教育長も行かれているんですが、去年も今年も、下出教育長と一緒に、山之村の校区の運動会に行くんですけども、あそこは校区の運動会なんで、小学生と中学生が同時に運動会があります。そうすると、昨年はちょうど小学校の低学年の女子生徒と、中学3年生の男子生徒が同じダンスですか、踊ったりすると、とても都会の中で、小学校の低学年と中学3年生の子が一緒になって踊るとか、そういったことを見ると、私はすごい感動して、これはやっぱりいいなと思って。

それで、そういったところを、例えば今、不登校になっている都会の親御さんたちに見ていただいて、PRすることはすごく大事なことだと思いますけれども、そういった、何か発信することは検討されていませんか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

そうですね、特に現時点では考えているところはないんですけども、議員も御承知のとおり、山之村の方々の中に、移住コンシェルジュをやっている方が複数名いらっしゃいます。地域の子供たちも、移住に対して非常に前向きに捉えて、自分たちも何かできることは

ないかと、一生懸命考えてくれています。

そういったこともありますので、例えば移住コンシェルジュの方々とも時々会話したりいたしますけれども、一緒になって今回のこの山村留学の取組なんかにつきましても、まだ県内では事例はありませんけれども、議員からこうやって御提案もいただいておりますので、相談をしながら、検討をちょっとしてみたいなというふうに考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

今言われたように、飛騨市は移住コンシェルジュですか、すごい活動をやってみえて、大変いいなと思うんですけど、これはあくまでも移住のためのコンシェルジュ、そういう活動で、なかなかその小学校の山村留学というのはまだ取り組まれていないので、ぜひ、今言われたように、少しでもコンシェルジュの方に取り組んでいただくことをお願いしたいのと、例えば、オファーとして、半年ぐらいちょっと山村留学をしたいと言ったときに、やはり小学校が変われば教材も違いますし、それと、体操服のようなものとか、生活するにはいろいろ今、移住者には補助金が出てますけど、例えば半年以上移住した場合に、そういった補助というのは可能なのか、ちょっと難しいのか、その辺をちょっとお聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

そういった短期間というか、ある程度の期間の間の留学というか、そもそも現時点でまだ考えておりませんので、何ともお答えようがないんですけども、実際にそういった形で受け入れるということになれば、何らかの支援策は考えてもいいのではないかなというふうに考えております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

ぜひ、例えばPR動画なんかを作ってSNSにアップすれば、相当数のオファーがあって、半年、1年でも留学したり、そのまま住んでいただけるという方が、私は少なからずいると思いますので、ぜひ検討してください。

それと私、あと最後になりますけど、結局今、飛騨市でも山之村、河合、宮川でもそうなんですけど、やっぱり若い方が結局外へ行って家庭を持たれて、高齢者がそういった田舎に住んでいるんですけども、本当が一番いいのは、そういった地元を離れた親御さんが戻って子育てをしていただいて、親の面倒を見る、そういったことができれば、自分の生まれ育った土地ですから、地域の環境も分かる、そういったところも、何か市としてPRできればいいなというふうに思っておりますので、またどこかでそういった機会がありましたら、地元の人を戻すような取組も検討していただきたいと思います。

それでは次に、2点目の質問に移ります。

2つ目、飛騨市の新たなまちづくりは。飛騨市古川町の駅東側に商業施設ができることは、承知のとおりです。この施設を整備されることで、飛騨市の中心部のみならず、周辺に存在する自然や各種施設へ足を運ぶような取組を行うとありますが、この施設を拠点としたまちづくりと、新設される大学とも連動しながら新しい飛騨市が誕生することを期待するものですが、市が取り組む飛騨市のまちづくりと観光客に選んでもらえるまちづくりについて、伺いたいと思います。

1つ目、飛騨市のまちづくりのビジョンは。私は、令和6年3月定例会で、2050年には人口が50%減の推移予想であるが、人口減少をしても、公共サービスや必要な事業を進めるための「この先20年はどのような飛騨市にするのか」のビジョンを市長に伺いました。

今回は、新たにできる駅東側商業施設や、来春開学が決定した私立大学ができます。そのことで、関係人口や交流人口が大きく変わると推測します。市長はこの先、飛騨市をどのようなまちづくりにするのか、ビジョンをお聞かせください。

2つ目、地域連携でまちづくりを。今回新設される商業施設利用者は、富山側から来ても、高山側から来ても、市道上気多杉崎線を利用され、施設利用後はそのまま市道上気多杉崎線を利用して帰ると思われるので、建設される商業施設をチャンスと捉え、古川の町なかに誘導する手段が必要ではないでしょうか。

古川町内は駐車場も少なく、また道幅も狭いので、車での観光には不向きのように思います。そのために、駅東側駐車場を利用してのまち歩きには、程よい距離に観光スポットがありますので、歩く機会を創出することが重要であると思います。そのためには、住民やNPO、地元事業者が密接に関わり、コミュニケーションを強化し、アイデアを具体化していくことが重要と思います。市は、地元関係団体と連携して、どのように観光客を町なかへ誘導することを考えているのか、伺います。

3つ目、駅東側商業施設の進捗説明を。飛騨市は、まちづくりに対していろいろと取り組んでいると思いますが、今、建設準備がされている駅東側ですが、古川町民はいまだに商業施設は市がつくると思っていて、神岡町民に限っては、多くは市が土地を確保して、そこに大学ができると思っています。市としても、市民の皆さんに何らかの説明をして理解をしていただき、市民との信頼関係を築くことが重要だと思いますが、いかがでしょうか。

せっかくできる商業施設でもあり、市民に歓迎されるものでなければならないと思います。民間事業であると思いますが、定期的な情報共有と進捗状況を公開することで、よりよいまちづくりが築いていけるとと思いますので、事業者の方には定期的に進捗状況の発信をしていただくお願いはできないでしょうか。

また、市は定期的に会合に参加していると伺いましたので、市民の中には建設される商業施設や周辺のまちづくりに対して、いろいろと意見や要望もあると思いますので、市役所のまちづくり観光課に市民向けの相談窓口や専用電話相談窓口を設置してはいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

私からは、1点目の飛騨市のまちづくりということについて、お答えをいたしたいと思います。議員おっしゃったとおり、駅東への商業施設の立地、それからこのC o I Uの開学というのは、市にとって大きな転機になることは間違いないというふうに認識をしております。ただ、市民の皆さんの中には、大学というもののイメージがまだ湧かない、あるいは大学というものをそもそも見たことがないという方も大勢おられて、大学ができると人が増えて、経済が活性化するんだという期待を持っておられることが結構おありになって、そういった話を聞きます。そのとき、

私いつも申し上げるのは、昨日もちよっと言いましたけども、この大学は1学年の定員が120人。しかもここで学ぶのは1年次のみ。120人というと、吉城高校の定員と一緒にですから、吉城高校が4年制になったというふうに考えても同じだ。それで人口が増えたり、経済が活性化しますかと、こういうふうにして言っております、そこについては効果は限定的だろうというふうに考えております。

むしろ、大きな可能性があるのが、議員がまさしく御指摘になった関係人口とか交流人口と、こういうことだと思っております。私自身、このまちづくりのビジョンという中でいつも申し上げているのは、人口は減るものだという前提に立ったときに、やはり地域外の方々との交流とか、心を寄せてくださる方との連携、そうしたこと、そしてまた飛騨市に関わっていただくということが飛騨市の力になっていくのだということを申し上げておまして、この飛騨市ファンクラブ、ヒダスケはじめ、関係人口、交流人口の施策には力を入れてきたところでございます。

そうした点において、このC o I U、駅東の開発というのは非常に期待が持てるというところでございます。

そのC o I Uなんですけれども、これ昨日も申し上げましたが、地域づくり人材の育成を目的といたしております。そしてまた、体験的な学びと理論を融合させるということが重視されております。そういたしますと、飛騨市の課題を学んで、まちづくりに実際に取り組む学生が増えてくるんじゃないかということが期待されるわけです。これまでも当市においては、ここに大学ありませんから、全国のいろんな大学と連携をしていこうということで、例えば大正大学とか、岐阜大学と連携して、毎年学生さんがここに来てフィールドワークをされたり、実際にそうした学生さんの活動が、地域づくりに寄与するという例もございます。

これも少し昨日触れましたけれども、宮川町種蔵での、岐阜大学の取組はその好事例でありまして、本当に一生懸命、何度も来て関わってくださっている。こういったことに近いことが、C o I Uの設立で起きてくるのではないかと。そうした活動が広がることで、地域に力を与えてくれるのではないかと考えております。

それからもう一つ、C o I Uについては、「知の拠点」という役割も期待できるわけございまして、大学ができなければ全く付き合うことがなかったであろう個性的な教授陣、こうした方々が飛騨市に足を運んでくださることで、行政や地域の歴史、文化、芸術、まちづくりといったところに関わる幅広い支援のネットワークが生まれる可能性がございまして。

特に学長の宮田裕章さんは、大阪・関西万博に自身のパビリオンを今出展されておられますけれども、大変な知見とネットワークをお持ちでございますし、宮田さんとも何度かお話をしておりますが、宮田さん御自身、この飛騨古川のまちづくりについて、大変強い関心とビジョンを持っておられて、ここのエリアをこんなふうにしていったらいいんじゃないかというようなこと、ぜひそれを自分でもやってみたいというようなことをおっしゃっておられます。そうすると、こうした御縁を大切にすることで、これも、飛騨古川の町というものが変貌していく、あるいは飛騨市全体に影響を及ぼしていくということになるのではないかなということも、期待をいたしているところでございます。

それから商業施設でございますが、午前中の議論もございましたけれども、詳細はまだ明らかではありませんので、詳細については、まだそこまで触れる段階ではないんですが、計画されて

いる子供の遊び場、温浴施設は、人が集い交流する拠点になるだろうというふうに見込まれるわけでありまして。例えばこれが飛騨市の子育て支援施策とつながれば、子供たちの交流が深まると思いますし、また薬草、広葉樹といったまちづくりと、例えば温浴施設がつながってくるということになれば、市街地だけではなく、飛騨市の自然資源に関心を広げていただけるような可能性もあると思っております。

また旅行者の方にも、一定期間滞在時間を延ばすということもあり得るのではないかとということも想像されますから、そうなってくれば、消費額の増大ということにも寄与するのではないかと考えます。

こうした成果を実現するためには、鍵になりますのは、市民や事業者がどのように関わるか、まちの暮らしと結びつけていけるかというところがポイントなんだろうというふうに思います。

学生、あるいはその個性的な教授陣がおられたとしても、市民の皆さんが遠巻きに、何かよく分からん人だから関わらないようにしようと思っていいたら、何も起きない。でも、積極的にいろんなこと学びたい、学生を手伝ってやりたいというふうに思っていただければ、これは学生さんのほうも、じゃあ飛騨市でもっといろんな活動をやってみたいとか、何か事業を立ち上げてみたいという人も出てくるだろうと思います。もちろん市政においても、個性的な先生方をアドバイザー、審議会の委員なんかで迎えるということも考えていきたいというふうに思っておりますけれども、まずは、市民の皆さんに教授陣や学生、そしてここを訪れられる方を暖かく迎え入れていただくということが大事ではないかというふうに思いますので、今後開学し、また施設がオープンするという段階になってくれば、だんだん具体的になってくると思いますから、それに合わせながら、市としても市民との接点を増やしていくという取組に取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

それでは、私からは2点目と3点目の御質問について、お答えいたします。

まず、2点目の御質問ですが、議員御指摘のとおり、今回駅東側に商業施設が整備されることは、特に古川のにぎわい創出に大きく寄与するものと期待しております。ただし、現時点では、入居する事業者や業種など具体的な情報は明らかになっておりません。今後は定期的開催される古川駅東開発定例会を通じて、順次情報を把握し、引き続き情報収集に努めてまいります。

詳細が明らかになった段階では、市内の既存事業者や、市が取り組んでおります様々なまちづくりとの連携を図り、相乗効果を生み出すことが重要と考えております。

具体的には、商業施設を訪れた方が古川の町なかにも足を運んでいただけるよう、回遊性の向上を目指すこととなります。その際には、古川町商工会や飛騨市観光協会をはじめとする関係団体との連携はもちろん、地域住民の皆様からも幅広くアイデアをいただきながら、検討を進めてまいります。

なお、議員からは、いわゆる農免道路の市道上気多杉崎線を利用されるようになるのお話が

ありましたけれども、来春開通予定の県道神岡河合線・太江杉崎バイパスが開通いたしますと、大半の車は県道を通るようになるものと思われま。したがって、市外から駅東方面へ向かう車は、県道を入りましてまつり会館交差点を通過することが多くなるのではないかと見込んでおりますので、こうした来春以降の車の流れも注視してまいりたいと考えております。

次に、3点目の駅東側商業施設の進捗についてでございますが、午前中の答弁でも申し上げましたように、現時点では詳しい情報を伺っておりません。これまでも申し上げてきましたとおり、駅東開発は純粋に民間企業による事業でありまして、市が共同で行っているものではありません。そのため、法令に基づいて事業が進められ、公序良俗に反しない限り、市が意見を述べたり、市民に説明を行う立場にはありませんし、市役所内に相談窓口を設ける考えもございません。

例えば、市内で複数開業しております、また、あるいは今秋に神岡に開業予定のドラッグストア「ゲンキー株式会社」も同様でございますし、高山市で言いますと、国道41号沿いで今秋開業予定の総合ディスカウントストア「ドン・キホーテ」についても、高山市が相談窓口を設けているという話も伺っておりません。

一方で、旧若宮駐車場エリアの開発につきましては、旧株式会社東洋の建物解体が順調に進んでおりまして、開発者側からも現時点ではスケジュールどおりとの報告を受けております。市からは、工事の進捗が市民の皆さんにも見える段階になってきたことから、議員御提案のとおり、近隣区長をはじめ地域の皆様に対して定期的に説明を行うよう、開発者に依頼をしております。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○6番（上ヶ吹豊孝）

まず、市長に伺いたいんですけれども、確かに今、生徒は1学年しか古川に滞在しないんですけど、18歳の学生が古川に来ます。そうすると、恐らく地元の方もみえると思うんですが、私が思うには、他県から来た生徒さんの親御さんにしてみれば、飛騨ってどんどこだとか、古川ってどんどこやとすると大概親御さんは、親戚含めて来たりとか、生徒さんの友達も飛騨ってどんどこやというふうに、相当数来ると思って、それが関係人口、交流人口だと思っております。

なので、120人掛ける親御さんと親戚集めたら、1人につき10人ぐらいぶら下がってくるんじゃないかと思って、それが毎年、120人変わっていくんで、10年もしたらもう何万人も来ると思って、そのためには、そういった方を逃がさないためにも、もう来年開学するんで、今何かをつくるとかじゃないんですけど、その関係人口、交流人口を見越した何かお考えがあれば、お聞かせください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

一番は、もちろん何かの施策を打つということもあるんですけど、この大学って、ボンディングシップとって、地域といろんな連携活動をするということが前提になっていて、今までも飛騨市はその実証段階からかなり入っています。やっぱり学生さんと、市のいろんな事業とかまちづくり活動との接点をつくってあげることが一番大事だと思っていて、それができるようになると、自然と、議員おっしゃるように、いろんなついてくる方もあるでしょうし、やっぱり飛騨って行ってみたいという方もあると思いますし、親御さんも、先日もオープンキャンパスが行われ

ていて、たまたま町にいたら、入学したいという予定者の人が保護者と一緒に来てるんですね。町を歩いていらっしやったので、保護者の方ともちょっとお話しされたんですけど、非常にこの町並みそのものに関心を示していらっしやるし、飛驒というところ全体が、高山も含めて観光地ですから、自分の子供がいるところに、いる期間の間に遊びに行ってみたいという人も出てくると思いますから、いろんな形で接点づくりをするということが一番大事じゃないかなというふうに思います。

なので、今後また大学との話合い、1年次、どういう過ごし方をするかということがだんだん明らかになってまいりますので、その段階で、1年生からのボンディングシップというようなものを、うちも関わってやっていく、あるいは積極的に関わってもらおうようにする、いろんなアイデアありますので、昨日も少しお話ししましたが、バイト先なんかでもですね、市役所もバイト先になるんじゃないかと、こう思っているところもありますもんですから、短時間の会計年度任用職員みたいな形でやってもらう、あるいは違う形でやってもらうというようなことで接点を持つ。市内の事業者の方もそうです。そういったことも含めて、いろんなことを考えてみたいというふうに思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

今言われたように、やはり市長が受験生の親御さんに会ったということで、必ずやっぱり親は子供が心配なので、ましてやこんな山奥に来るとするのは相当の心配がありますので、そういった方を受け入れる、市長のことですからいろいろ考えてみえると思いますが、ぜひ来た親御さん、親戚、友達を逃がさないようにお願いしたいと思います。

それとあと、昨日の話で、開学が決定するかどうか分からないんで、学生さんが今住むところがないんで、取りあえず今は高山という話が、たしかあったと思います。今、市長の答弁で、この学校は地域密着型のような大学なんで、結局、住むところが高山ですと、当然休日も飛驒市にいないということで、大学ができたばかりで、来年は間に合うかどうか分かりませんが、将来的には、やはりほとんどの生徒さんは飛驒市に住んでもらうようなことじゃないと、休日も若い方がいない、夜も若い方がいないという、寂しいままに終わってしまうんですけど、これは大学が考えることだと思うんですが、そういった生徒さんが今後住むようなことを、働きかけは考えてみえるんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

大学の皆さんも、基本的にはやっぱり飛驒市内、古川町、この近いところに住んでもらいたいという御意向はお持ちで、ただ物理的に住むところが少ないという課題がありますし、開学するか分からないうちにアパートを建てる人はいませんもんですから、やっぱりこれからになってくるだろうなと思うんですね。

なので、私自身としては、やっぱり近いところに住んでいただくというのが一番いいんじゃないかというふうに思っています。ただ、それは何て言いますかね、高山市を排除してかかるとかそういう意味ではなくて、連携しながら大学を盛り上げていきたいと思いますという話も、昨日もちょっと高山の田中市長としてたんですけども、そういった中で、高山市も2年目以降の滞

在拠点なもんですから、そういう意味では、岐阜県内では今、岐阜市と高山市ということなんです、飛騨地域全体も考えながら、いろんな連携体制を取っていくということはやりながら、でもやっぱり、1年次、より近いところのほうがいいですし、そうなってくると、2年次以降もここで地域活動をやりたいという人も出てくる可能性が高まりますから、これは民間の投資を促していくというところもありますから、なかなか市で、こう言えばこうなるということではないんですが、また状況を見ながらですね、いろんな働きかけをして取り組んでいきたいということでございます。

○6番（上ヶ吹豊孝）

一度高山に引っ越せば、なかなか飛騨市に宿を準備しても来られないと思いますので、来年、再来年以降は飛騨市にその準備されて、もう入学と同時に古川町、神岡、宮川、河合に住んでもらうような、そういったことをまた検討して、できるだけ高山には行かんように、私は、我々飛騨市民としては思っていますので、よろしくをお願いします。

あと駐車場の件なんです、今、新しい駐車場ができました。それで今度、商業施設ができる駐車場ができます。我々どこへ出かけても、最近駐車場には大きな町の案内があると思うんですが、私は最近見たけど、今、駅東側の駐車場にまだ市内の案内の駐車場がないんですけど、例えば河合方面へ行けば天生湿原があったり、宮川へ行けば池ヶ原湿原、飛騨みやがわ考古民俗館、神岡のほうへ行けば、山之村、「レールマウンテンバイク ガッタンゴー」があるという、そういった飛騨市広域のそういった看板を立てるという計画はあるんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

駅東駐車場側につきましては、以前も若宮駐車場に大きい観光案内看板がありましたので、その代替の看板はつけていただく予定になっておりますけれども、まだちょっと、どういった案内を載せたものにするのかですとか、設置する場所についてはこれからになりますので、伺った御意見も参考にしながら進めてまいりたいと思います。

○6番（上ヶ吹豊孝）

ぜひ駐車場には、もう検討されているということなんで、飛騨市全域を網羅した看板を立てていただくようお願いしたいのと、あと、新しくできるその商業施設の駐車場には、お願いはできないということですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

現時点では、先ほど申し上げましたように、駅東の施設の詳細がまだ分かっておりませんので、そういった構造的なものの設置についての市からのアクションは起こしておりませんが、当然、施設内に、例えば、総合案内的な場所が多分できるのではないかと思いますので、そういったところにはもちろんパンフレット、マップなどを配架させてもらうことをお願いしたいと思いますし、構造的なものにつきましては、施設全体の設計が、今の万博の大屋根リングを設計された藤本壮介さんによるものでして、多分施設全体の結構細部にわたるまで、そのデザインコンセプト

トに基づいていろいろつくり込まれるのではないかと予測をしております。そういった中で、どの程度、市のお願いを聞いていただけるのか、そういったこともありますので、その辺も考え合わせながら、開発者側と協議をしてまいりたいと思います。

○6番（上ヶ吹豊孝）

ぜひお願いしたいんですが、今、駅東側の駐車場はほとんど平日は職員の駐車場になっていて、休日にも利用される観光客の方はみえるんですけども、今度商業施設ができれば、あそこの駐車場は、ほとんど施設を利用する方で、恐らく市外の方だと思いますんで、ぜひ事業者の方に、市内の観光案内看板を立てていただくような努力をしていただきたいというふうに思います。

それと、いろいろ相談窓口を設けないというお話でしたけども、工事期間は約2年間あって、意見、要望というよりも、恐らく、大きい建物が建つんで、むしろ要望、お願いよりも、車の大型車の往来だとか、重機の音だとか、そういったことの苦情のほうがあるのかなというふうに思ったんですけど、もしそういった市民の方があった場合は、どういう手段で連絡すればいいか、教えてください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

開発者側の事業者には、今、解体工事が始まっておりまして、御近隣の皆様の関心も高まっておりますので、今後の工事の進捗の大まかなスケジュールであるとか、あとそういった苦情をお伝えする際の窓口も明記したようなペーパーをお配りいただくようなことをお願いしておりますので、その中で対応していければと思っておりますし、市役所にお寄せいただいた声が出てくるとすれば、それは事業者のほうに伝えていきたいと思っております。

○6番（上ヶ吹豊孝）

長期の工事なので、チラシは多分配られると思うんですが、やはりそれ以外に、市民の方でも上気多杉崎線ですか、通る方もみえると思いますんで、看板によく工事責任者の番号とか書いてあると思いますので、そのようにぜひお願いしたいというふうに思います。

いずれにしろ、これだけの長い工事、やはり商業施設ができれば、やっぱり地元の方も大いに利用して盛り上げていかないと、先ほど市長言われたように、大学もそうですけれども、市民の方が人事というふうに考えるんじゃないかと、やっぱり何らか、市民を巻き込むようなことをして、大学と商業施設、2つも大きな物ができるんで、ぜひ市役所としても、市民の方をうまく取り込むようなことをしていただいて、この商業施設、大学をチャンスと捉えて、向かっていっていただきたいと思っております。これで、私の質問を終わります。

〔6番 上ヶ吹豊孝 着席〕